



教育目標「学ぶ吉中 鍛える吉中 心の吉中」

吉田中学校だより

令和8年6月16日発行第27号

Tel. 0256-93-3235

吉田中 HP「学校日記」

「校長 vision」お見逃しなく!!



あれでよかったのだろうか

校 長 武井 正明

「体じゅう管で繋がれて、延々と生かされるのだけはごめんだ。お母さんもそうだったけれど、延命措置だけは絶対に（手で×印）ね」「それはわかってるから…」

昨年五月連休の入院が、まさか自宅に帰れぬままになるなど思ってもみなかった。寝る時間が多くなったとはいえ、普通に暮らしていた父の体内に、既に大きな腫瘍が3つもあったとは俄かに信じられなかった。父には伏せ、腸の炎症ということにした。

入院中、親父は覚悟していた。

死の、ではない。開腹手術の、だ。「これもさだめだね」と手術を覚悟していた。

しかし私は真実を父に伝えず、別の選択をした。

手術しても傷口を塞ぐだけだ。全快はしない。術後の苦しみと高齢と、その後の長期治療の互いの負担を考えたら、静かで穏やかな最期をと、最後は私が決めた。

当初は手術するものだとは覚悟していた父…。

私は嘘をつき通した。途中からはもう私に、手術しないのかと訊かなくなった。

それまで自分の決断に迷いはなかった。病室を親戚が訪ねてくる。親父はもう解っていた。痛みを堪え、元来のサービス精神で見舞客に笑顔さえ振り撒いていた。

そんなある時…。

妻とたったふたりになった病室で、父はこう漏らしたそうだ。

「最後の最後に、これかあ…」

手術をしていれば苦痛を伴うが、一度は自宅に帰って、家族で食卓を囲むことができたかもしれない。その団欒を冥途の土産にと、親父なりの「覚悟」もできたはずだ。

父は本当に、悔いなく逝けたのだろうか。最後に食べた物が売店のおにぎりで、あの親父が満足するわけがない。最後まで喉が渇く、と水を欲しがっていた。

結局私には何の恨み言も吐かず、最期まで私に気兼ねし我慢して、私が初めて付き添った翌未明、気付いた時はもう、息を引き取っていた。

それから二度目の父の日が来る。あれでよかったのだろうか。

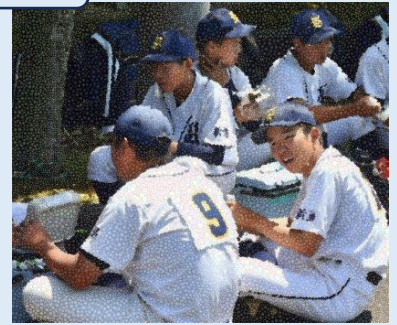
5/14(木)茶道部見事なお点前!!



5/16(土)全軟県大会 (巻城山球場)



レフトスタンドへ特大の一発!!



5/22(金)生徒総会



5/22(金)第1回学校運営協議会

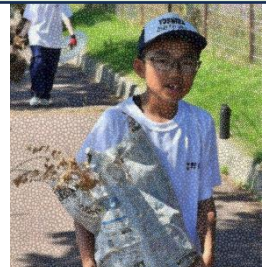


6/5(金)学年 PTA ゴミ拾い

5/29(金)選手激励会



6/4(木)地区大会女子テニス



6/9(火)地区大会バド(長岡)



令和8年度6月後半～7月の主な行事

23(火) 評議会・専門委員会
26(金) 質問教室(国数英)
29(月) 質問教室(理社)
30(火) 第1テスト①

1(水) 第1テスト②
3(金) 地区大会報告会(朝)・2年生マナー講習会
8(水) 3年生上級学校訪問
10(金) 体育祭リーダー会議
21(火)～23(木) 夏季保護者会・2年生職場体験
27(月) 1学期終業式